

ふるさと歴史アラカルト

岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物⑦ 赤瀬武人^{あかねたけと} 3 (1838〜1866年)

元治元(1864)年8月、四国艦隊^{※1}が、前年に長州藩の行った攘夷^{ざうぎ}に対する報復のために下関を襲撃しました。

赤瀬武人は奇兵隊を率いて戦いますが、外国の圧倒的な力の前に長州藩は敗退し、数日で講和を結ぶこととなります。なお山縣有朋が後に「赤瀬はほとんど一令も発せず、その挙動、すべての隊中の侮るところとなり」と、武人がこの戦いに全く参加しなかったような口調で批判していますが、『白石正一郎日記』には「赤瀬ふみとどまり」とあり、総督としての役割を果たしていたことが分かります。同年10月10日、眼病を理由に総督の辞任願いを出し、阿月^{あつき}(柳井市)へ帰りました。

同年、7月の禁門の変を理由に、第一次長州出兵が始まりました。これは岩国藩主吉川経幹^{つねかん}の活動により戦争回避に成功しますが、この後、長州藩では棕梨藤太^{むくなしとうた}を中心に幕府への恭順を進める保守派が実権を握り、革新派を投

獄し、奇兵隊など諸隊の解隊を進めようとしています。この状況を知り、11月に奇兵隊へ戻ってきた武人は、長府藩(下関)を通じて藩政府と交渉し、革新派の復権を目指すなど、状況の打開に努めました。しかし武力による打開を考えた高杉晋作は、諸隊を説得し動かそうとします。晋作は挙兵に消極的な奇兵隊を説得する際「赤瀬は一農夫、自分^{自分}は譜代の家臣である」と述べており、身分にこだわらない軍隊といわれる奇兵隊創始者の裏の面が見えるとともに、武人の養子に反対した吉田松陰の考えと比較すると興味深い部分です。

12月15日、晋作は功山寺で挙兵しました。これを受けた藩政府が革新派を処刑したことによって、当初参加しなかった奇兵隊も参加を決意し、結果、晋作の内戦は成功する形となりました。藩政府は武備恭順^{ぶひきょうじゆん}へと方針転換をし、交渉による解決を目指して挙兵に反対した武人は難しい立場に置かれます。



▲和議談判御届書面…四国艦隊との講和を幕府へ報告したもの

※1 アメリカ、フランス、イギリス、オランダ
※2 外国艦隊への砲撃
※3 対外的には幕府に恭順する姿勢を保ちながら、藩内では軍事力強化を考へ

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 140,609 人【前月比 -693人】 男性 66,535 人 女性 74,074 人

世帯 66,380 世帯【前月比 -115世帯】 ※外国人人口を含む(平成27年4月1日現在)

交通事故発生件数 3月分事故件数 55件(121件) 死者数 0人(0人) 傷者数 63人(136人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337